

第4回「ナンバープレートのあり方に関する懇談会」議事概要

1. 日 時 平成24年3月15日(木) 10:00~12:00
2. 場 所 国土交通省(中央合同庁舎第3号館) 4階 幹部会議室
3. 委員からの主な発言

- ナンバープレートについて、いずれの表示項目であっても、桁数を増やすとなると、様々な車両管理システムに影響があり、その修正に莫大な時間とコストを要するため、別の方法での対応とすべき。
- ご当地ナンバーについて、細分化されると手続きの手間の増加が懸念されることから、手続きの簡素化を図るべき。車両管理システムへの影響を抑える観点からは、地域名の記号化は良いのではないかと。
- 希望番号の枯渇問題を考えると、何らかの対応が必要であるが、桁数を増やさずに数字の一部をアルファベット化する対応は、社会的なコスト負担をある程度抑えることができる現実的かつ有効な方法ではないかと。
- ナンバープレートについて、社会的ニーズを勘案して何らかの見直しを行うとしても、社会的コストが軽減されるような経済的合理性、効率性の視点も必要。
- 犯罪捜査等の観点からは、ナンバープレートの表示から地域名をなくすと、相当の影響が出るのではないかと。
- ナンバープレートの形状を見直すことで、デザイン性が良くなったりすると、自動車の販売促進につながることも期待できるのではないかと。
- 封印について、規制緩和の観点からの検討を進めるべき。
- ナンバープレートの視認性について、夜間にも留意した検討が必要。
- ナンバープレートの形状を見直し、さらに、地域名表示を記号化すること等により、ご当地ナンバーや希望ナンバー制への対応が図り易くなれば、大変良いことだと思うが、その際にも、これまで馴染んできた4桁の数字の視認性がデザイン面で担保されるようにすべき。
- 視認性を阻害しない範囲で、地域の愛着醸成、観光振興等の政策目的のため、プレートに一定の図柄の表示を行うことは良いのではないかと。

- 努力目標で良いので、懇談会としての方向、スケジュール感をきちんと示せないか。例えば、一定の事項について、今後も検討を進めることとした場合に、技術的な観点から専門家を集めて2、3年検討するというだけでも良いと思うが、何らかの期限を設けるべき。
- 中間とりまとめについては、現行制度からの変更点や見直しの優先順位を分かり易くするようにする工夫が必要。
- ナンバープレートの形状の見直しにより、車のデザインを変更しなければならなくなるのであれば、数年程度の開発期間を勘案した猶予期間を設けることが必要。また、見直し後も、一定の期間は、新旧の形状が併存することとなると思うが、過度期の対応もしっかりと念頭に置きながら十分な検討を進めるべき。
- 現在のナンバープレートは4桁の数字を強調するようなデザインだからこそ希望ナンバー制に意味があるのであり、仮に、ナンバープレートを見直した場合にも、4桁の数字を強調するようなデザインとすべき。
- ナンバープレートのデザインが、自動車ユーザーにとって、アイデンティティーを発揮しやすいものであれば、自動車の買換えも促進されるのではないか。
- グローバルな動きを踏まえると、ナンバープレートの形状を横長化していく方が、我が国の国際戦略上も有利なのではないか。
- ナンバープレートの表示を数字とアルファベットだけにしてしまうと日本らしさがなくなってしまうので、日本語の表記を残すべき。
- ナンバープレートに表示する情報量が多くなると、視認性を悪化させることにならないか。ナンバープレートを見直す場合には、様々なデザインが想定されるが、視認性の観点から、4桁の数字が瞬時に確認できるようなものであるべき。